

令和3年度 名取支援学校 学校評価報告書

1 本年度の学校評価について

(1) 全体評価より

本年度の学校評価は、各項目について「4：はい、3：どちらかといえばはい、2：どちらかといえばいいえ、1：いいえ」の4点満点で評価を行い、保護者対象の全体平均は（3.53）、職員対象の全体平均は（3.48）と高い数値となった。また、前年度比は、保護者対象が（0.08）、職員対象が（0.03）となり大きな変化はなかった。

(2) 保護者評価より

保護者評価では、全体平均が（3.53）と高い評価を得た。各項目の中で全校平均が（3.4以下）と低くなったのは、「7：本校では、児童生徒の問題行動等に対応するコーディネーション（相談の調整）機能が円滑に図れていると思いますか。」の（3.39）。「8：本校では、個々の職員にとって必要な研修が実施されていると思いますか。」が（3.31）。「10：本校では、学部の特色を生かした地域との関わりづくりが図られていると思いますか。」が（3.32）。「24：本校では、互いに協力して円滑なPTA活動が行われていると思いますか。」が（3.37）。「27：学校は、いじめの早期発見に取り組んでいると思いますか。」が（3.19）であった。

(3) 職員評価より

職員評価の全体平均においても（3.48）と高い評価を得た。各項目の中で全校平均が（3.2以下）と低くなったのは、「4：教育目標等について保護者に説明する機会が設定され、分かりやすく説明されている。」の（3.13）。「10：学習評価の3観点を視点とした授業改善がなされている。」が（3.28）。「11：学部を越えた学び合いの充実と職員間の連携が図れている。」が（2.99）。「12：児童生徒の問題行動等に対応するコーディネーション機能の円滑化が図られている。」が（3.27）。「13：個々の教員のニーズに応じた研修が実施されている。」が（3.15）。「16：学部の特色を生かした地域との関わりづくりが図られている。」が（3.16）。「26：互いに協力して円滑なPTA活動が行われている。」が（3.28）。であった。

(4) 改善策

保護者評価、職員評価とも共通して低かったのが、「児童生徒の問題行動等に対応するコーディネーション機能の円滑化」と「個々の教員に必要な研修の実施」、「学部の特色を生かした地域との関わりづくり」、「互いに協力しての円滑なPTA活動」であった。

これを受け、改善を図るために、以下のように取り組んでいく。

- ・「問題行動等に対応するコーディネーション機能の円滑化」については、本人、保護者の相談や意見、指摘を真摯に受け止め、担任・学部主事・支援部・生徒指導部・教頭の連携、さらに相談事業所等関係機関と情報の共有や共通理解を図りながらよい方向に進めていく。
- ・「個々の教員に必要な研修の実施」については、①「学びに向かう力、人間性等」の育成と「主体的に取り組む態度」の学習評価を視点とした授業研究と授業改善。②ICTを活用した授業実践の推進。③校内研修と外部研修会（動画）の共有による個の研修ニーズへの対応。次年度もこれらの内容を軸に、さらに日々の授業実践や研修を重ねることにより、職員の専門性の向上を図り、適切な指導の実践・学習評価ができるように進めていく。

- ・「地域との関わりづくり」や「円滑なPTA活動」については、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症対策等で地域との交流行事やPTA行事が中止になり、新しい生活様式による活動制限などがあったことが低くなった要因として考えられる。改善策としては、①感染症予防対策の継続と実施。②保護者や地域に対する教育活動（防災訓練、高等部作業製品の校外販売やアンテナショップ、尚絅学院大学との交流、出前講座等）の周知及び啓発。③地域の人材、資源を活用した教育活動の再構築と実践。④コミュニティスクールの計画・実践。以上の内容を中心に、保護者や地域・関係機関との協力・連携の強化を図っていく。
- ・「いじめの早期発見の取組」については、今年度から項目を追加した。生徒指導部を中心にいじめに関するアンケート「学校生活アンケート」を年2回実施し、いじめの早期発見に努めている。保護者にあまり伝わっていないことが推測されるので、今後は便りの発行や面談等での聞き取りなど情報交換や取組についての理解を図っていく。

2 その他

学校評価全体会での学校評価・反省を踏まえ、次年度の重点努力目標を立て、その具現化に向けて取り組んでいく。